

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

肝属地域農業改良普及事業協議会

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6

TEL：0994-52-2143

FAX：0994-52-2147

<平成27年度普及活動の方針について>

肝属地域の農業振興上の課題、方針を踏まえ、H26年度～30年度までの5カ年間計画を作成した2年目となります。活動に当たっては、農業者や関係機関・団体と連携し、計画的かつ重点的に主に次のとおり普及活動を進めます。

<写真で見る平成26年度普及のあしあと>



1 肝属地域の次世代を担う若手農業者の育成

新規就農者、青年農業者、農業経営者塾生への発展段階に応じた支援を強化し、次世代を担う農業者の能力向上を図ります。

2 肝属の特性を生かした園芸産地づくり

○野菜は地域の特性を生かした産地振興を図るとともに、新規就農者確保・育成、大隅加工技術研究センター等の機能活用による野菜経営体の育成を図ります。

○果樹は「マンゴー」「大将季」の収量アップ対策に取り組み、産出量のアップを目指します。

○花きは、肝属花きブランド品目のスプレーギク産地維持拡大及び輪ギクの生理障害対策、テッポウユリの県育成新品種を利用した周年出荷体系の確立を図ります。

3 茶産地の中核となる経営体の育成

産地の中核となる茶工場の経営改善を支援します。また、第三者認証、輸出茶の取組を展開します。

4 中核的畜産農家の育成と飼料自給率向上のための外部化推進

肉用牛は産地維持のための増頭志向農家を重点に支援し、飼料作の生産流通体制の充実を図ります。また、Web台帳システムを活用したモデル農家育成を進めます。

5 肝属中部地区の水利用による生産性の高い営農の実現と担い手育成

平成28年度一部通水に向けた畑かん理解促進、話し合い活動による農地集積等の検討を進めます。

6 安心・安全な野菜・果樹生産確立・定着による地域農業の活性化

天敵を基軸とした野菜・果樹生産の技術確立と定着に取り組むことにより安心・安全志向に応えた栽培体系の確立・普及を推進します。

7 地域農業の維持発展のための営農システムづくり

地域農業の持続的発展のために肝属地域の営農を支える集落営農組織等の育成、水田・畑作・畜産農家の一体的活動による地域営農システム化を図ります。

< 青年農業士の認定者紹介 >



下園政雄さん（肝付町作物）は平成22年に就農、2年後に独立した水稲専作農家です。

経営開始時の疑問であった植付株数はどれがベストなのかを自ら確かめるために、坪60・70・80株植え区の実証ほを設け、生育・収量・コスト調査を行うプロジェクト活動に取り組んだ結果、坪70～80株がベストであること（「水稲栽培暦」のとおりですか）が導きました。

課題解決にむけた緻密な計画と活動によるプロジェクトの成果もさることながら、本人に高い実践能力と改善能力が培われたことが高く評価され青年農業士に認定されました。

今後、肝属地区の水田を担う青年として期待されています。



鶴園貴之さんは、平成23年に就農施設等資金を借りて就農した、生産牛農家です。

就農計画の目標である生産率95%を達成するため、年一産を目指し、分娩間隔の短縮のためのほ育管理方法（自然ほ育、制限ほ育、人工ほ育）を検討するプロジェクト活動を行い、人工ほ育が最も適したほ育方法であることを導きだしました。

理論を確認しながら、実践し、結果を比較検討して、わが家の経営に反映していくプロジェクトの手順と、理論を確認する探求心と熱心さが高く評価され、青年農業士に認定されました。

今後も多くを学び、肝属の畜産を担っていくことが期待されます。

< 女性農業経営士の認定者紹介 >



女性農業経営士とは、農業経営に積極的に参画し、農家生活や農業経営・労働管理等の高度な知識や技術を有し、我が家の農業経営や地域農業の課題解決に取り組み、発言力や実践力のある地域のリーダー的女性農業者として知事が認定する者です。

新福頼子さんは、肝付町後田で、パートナーの春美さん、後継者の廉一郎さんとともに生産牛経営に励んでおられます。

現在の経営概況は生産牛80頭、飼料作15ha、飼料稲6ha、早期水稲2haで、頼子さんは主に親牛の飼育と子牛の健康管理を担当しています。

また、作業日誌を記帳し、作業の進捗状況の確認や子牛の販売実績や経費の記録等を行い、経営の把握を行っています。

2年前には大型特殊免許を取得し、経営の一員として、積極的に経営参画しています。

将来的には、家族で法人経営へ向けて経営を発展させていかれることが期待されます。

<うめもんの会が“食”活動表彰を受賞>

県が主催する、かごしまの“食”活動表彰の地産地消活動部門で錦江町田代の「でんしろ うんめもんの会（H14年6月設立、会長：猪鹿倉房子）」が大賞を受賞しました。

この賞は、県産農林水産物の消費拡大、消費者と生産者の交流の促進等、地域の個性を活かした地産地消に貢献している活動に与えられるものです。

<活動の特徴>

- 地域高齢者からの原材料を買い上げるなど、生きがいづくり活動につながる
- バスツアー客を対象とした加工体験などの消費者との交流
- ゴミの出ないエコを考え、さらに地域食材を豊富に使った竹皮弁当の開発
- 町内の異業種との連携による、イベントでのPR活動

※知事の右隣が猪鹿倉さん、右後ろが副会長の貫見さん



<県茶品評会7年連続産地賞を受賞>

鹿屋市は地区の茶業の発展と振興を図るために毎年、茶品評会に取り組んでいます。

その結果、平成26年度県茶品評会の「深蒸し煎茶の部」で7年連続となる産地賞を受賞しました。

また、個人賞では鹿屋市の徳田潤一さんが深蒸し煎茶の部で農林水産大臣賞を受賞し、枕崎で開催された県茶業振興大会（かごしまお茶まつり）で表彰されました。（写真）

大隅地域では、深蒸し煎茶の他、普通煎茶や玉緑茶を生産していますが、消費の減少等により荒茶価格が低迷しています。生産者は、技術の向上に努めながら安心安全なお茶づくりに励んでいます。

地元で生産されるおいしいお茶を飲みましょう。



知って得する! 技術情報!! ~畑かん営農編~

<畑かん施設を活用すると様々な効果が期待できます!>

「肝属中部地区(鹿屋市・肝付町)」内の一部の地域において、平成26年度から整備を進めています「給水栓」は、畑の脇に設置される水道の蛇口のようなものです。

給水栓を設置し散水器具を使って、これを有効活用することにより様々な効果が期待できますので、豆知識としてその一部を紹介します。



(豆知識1)

軽トラックの燃費は、1 km走行するのに「約10円」かかります。

1 トンの水を運ぶ場合、軽トラック(最大積載量350kg以下)では往復3回の走行が必要で、「60円のガソリン代」がかかります。

さて「さつまいも」は植付前に1反(10a)あたり30トンの水が必要で、これを軽トラックで運搬すると往復90回の走行が必要で、1,800円ものガソリン代がかかるとともに、運搬時間だけで9時間以上かかります。

(1 kmあたり3分で試算。)

(豆知識2)

天気予報などで「本日は5ミリの降雨がありました。」との報道がありますが、この降雨量は1反(10a)あたり5トンの水を畑に散水した量と同じになります。

たとえば、「さつまいも」は2~3月の植付前に1反(10a)あたり30トンの水が必要ですが、これは30ミリの降雨と同じ量です。

しかし、30ミリのまとまった雨というのは平年で16日程度しかなく、そのほとんどが梅雨時期から夏場にかけて降っています。

(豆知識3)

現在、桜島の噴火が活発ですが、降灰等の洗浄に活用できます。

又、収穫した生産物や使用した農業機械を給水栓を使ってその場で洗浄することにより家庭での水道料金の軽減が図られます。

(豆知識4)

鹿屋市や肝付町等に設置された実験ほ場での結果によると、品目別のかん水効果として「133%(しょうが)~114%(だいこん)」の増収率が見込まれるとともに、品質も大幅にアップすることが確認されました。

(豆知識5)

鹿児島県曾於・肝属地域には大小330程度の農業生産法人が存在し、一部の法人に対して意向調査を行ったところ、大半が給水栓が設置された畑をぜひ賃貸借したいと希望が寄せられました。



経費削減で儲かる農業、将来に渡って安定した農業を目指すためにも、有効活用をご検討下さい。

知って得する! 技術情報!! ～作物編～

<さつまいもの病害対策>

さつまいも植付後に生育不良となる原因としては、「立枯病」と「つる割れ病」の発生によるものがあります。これらの病気は、病原菌が感染後すると、防除する方法はありませんので、事前の対策が必要です。昨年これらの病気が発生したほ場では、下記のことにご注意しましょう。



写真1 立枯病発生ほ場

<立枯病>

1 症状

- ① ほ場に生育の悪い株が広い範囲で発生（写真1）
- ② 定植後、1ヶ月以内に枯死し、欠株となる。
- ③ 枯死しない場合、いもに黒い円形のあざが残る。

2 原因

○立枯病は、①②③の条件が揃った場合に発病

- ① 土がアルカリ性になっている。
- ② 軟弱な苗、老化が進んだ苗・痛みの激しい苗
- ③ 植付時の土壤水分が低く、地温が高い。

3 対策

○立枯病が発生しやすいほ場は、次のような対策が必要です。

- ① 可能な範囲で早植える（植付時の高地温を回避）。
- ② 適切な土壤水分のときに畦立てマルチする。
- ③ 畦立てマルチしてから1週間以内に植える（植付が遅れると、土壤水分が低く、地温が高くなる）。
- ④ 5月下旬以降の定植はマルチをしない。
- ⑤ 土壤pHが6を超えている場合は、石灰の多投に注意する。



写真3 つる割れ病発生株

写真2 つる割れ病発生ほ場

<つる割れ病>

1 症状

- ① 葉の一部が黄色、赤紫色に変色し、落葉する（写真2）。
- ② 曇天・雨天時には健全に見える株が、晴天時には株全体がしおれる。
- ③ 地際の株元の茎が縦に裂ける（写真3）。
- ④ 株を抜くと、茎が黒変し、空洞となっている。

2 原因と対策

- ① 種いもから苗への感染（育苗床で感染）
→発病したほ場のいもは、種いもに用いない。
→ベンレート水和剤500倍液に苗を20～30分間浸漬し、消毒を行う。

- ① 畑の土に残った病原菌が苗に感染→連作は、できるだけ避ける。
- ③ 採苗用のハサミで感染（苗から苗への感染 意外と盲点）→採苗用のハサミを加熱消毒する。

知って**得**する! 技術情報!! ～畜産編～

<良質な WCS 用稲の確保を!>

最近の輸入粗飼料価格は上昇傾向にあり、自給粗飼料確保は今後ますます重要になってきます。管内では WCS 用稲の作付面積は年々増加傾向にあり、自給粗飼料としての利用が進んでいます。今回は良質な WCS 用稲を確保するためのポイントについて紹介します。

1. 収穫とサイレーシ調製

① 糊熟期以降に収穫する

WCS 用稲の飼料成分は、熟期によって異なります(表1)。とくに出穂期から乳熟期にかけて、TDN が一度低下するため、TDN が高まる糊熟期以降に収穫をしましょう。糊熟期の目安として、出穂してから10～25日後、穂の状況は、モミは黄緑色、胚乳は糊状となります。また、刈り遅れると脱粒しやすくなり、食用米と混入する危険性があるため、注意が必要です。

表1. WCS 用稲の熟期の判定例と飼料成分

熟 期	出穂後の目安	穂の状況	水分 (乾物%)	CP (乾物%)	TDN (乾物%)
出穂期	—	—	75.6	7.2	51.5
乳熟期	10 日後	モミは黄緑色 胚乳は乳状	71.8	7.3	50.3
糊熟期	10～25 日後	モミは黄緑色 胚乳は糊状	63.6	6.4	53.2
黄熟期	25～40 日後	モミは黄緑か褐色 胚乳はロウ状	61.0	5.8	54.0

※CP…粗たんぱく質, TDN…家畜がその飼料から消化吸収できる養分量

② サイレーシは水分含量を40～60%に調整する

水分含量70%以上になると発酵品質が悪くなります。水分が多い場合は、予乾をおこなってください。予乾は天候が良く、水田が乾燥していれば、半日で十分です。

2. ラップサイレーシの保管

- ① 運搬時の破損やゆるみに気を付ける
- ② 排水良好で平坦な場所で保管する
- ③ 破損を見つけた際はテープ等ですぐに補修する
- ④ ラップサイレーシの積み過ぎに注意する

とくに、破損やゆるみによって2次発酵が進み、腐敗してしまいます(写真1)。また、サイレーシを積み過ぎてしまうと、重みで下のものが潰れてしまうので、長期保管をする際は、2段積みまでにしましょう。



(写真1)

3. 給与のポイント

WCS 用稲は繊維が荒いので、可能な限り母牛用の飼料として利用し、子牛へは柔らかい良質乾草を給与しましょう。

< 県青年農業者会議でW受賞！ >

県農業青年クラブ連絡協議会による「鹿児島県青年農業者会議」が、2月18日志布志市で開催されました。「意見発表」と「プロジェクト」の両部門において、肝属地区農業青年クラブ連絡協議会（肝属連協）のクラブ員が最優秀賞を独占しました。

課題解決に取り組む「プロジェクト発表」部門では、肝付町ほよし耕心会の下園政雄さんが最優秀賞を受賞しました。発表タイトルは“イネづくり，どれがベスト（我が家の栽培マニュアルづくりへの一歩）”です。下園さんは、周りの農家が栽培基準と異なる裁種密度で栽培していることに疑問を持ち、本当に最適な裁種密度を自らの活動で明らかにしました。堂々とした発表で、審査員からの質問にも的確に答えました（写真1）。

意見発表を行う意見発表（輝けトーク）部門の最優秀賞受賞者は、鹿屋市農業青年クラブの上村伸子さんです。上村さんは「進め！土触系MAMA！～みんながHAPPYになるために～」で発表しました。審査委員長講評では、「上村さんの発表は、はっきりした口調とアクションで、具体的なイメージがよく伝わった」と賞賛されました（写真2）。



写真1 下園政雄さんの発表



写真2 上村伸子さんの発表

< 鹿児島県初の快挙 農林水産大臣賞受賞！ >



大平さん

勝目さん

写真3 全国青年会議の受賞者

平成25年度の「鹿児島県青年農業者会議」の「意見発表」部門で最優秀賞を受賞した大平龍美さん（鹿屋市農業青年クラブ）は、九州・沖縄青年農業者会議でも最優秀賞を受賞し、さらに全国青年会議でも最優秀賞（農林水産大臣賞）の快挙を成し遂げました。なお、プロジェクト発表部門（茶・園芸）においても鹿児島県の勝目千里さんが最優秀賞を受賞しました。鹿児島県勢が最優秀賞（農林水産大臣賞）を獲得するのは、両部門において初の快挙のようです。

東京で開催された全国大会には、多数のクラブ員が応援に駆けつけました（写真3）。